

HEROES

CHAPTER 22

地獄の天使

眼鏡の男、ベネットは、これまでに数多くの能力を持つ人間たちと遭遇してきた。彼が関わってきたそのほとんどは、名前もないファイル番号だけの、“捜査”のターゲットだった。

もちろん例外はあるが、それはごくわずかだった。その中でも、彼がこの仕事をし始めた当初に出会った一人は、彼の人生において最も特別な存在となる。…それはクリアという名の赤ん坊だった。

テキサス

1992年 真夜中

クロードと組んで
何度目かの任務でのことだ。

その女は能力を
現したのか？

わからん。
何が出てくるか分からない。
お楽しみだ。

パートナーになってしばらくだが、
私はまだ新人で、彼は7口。

危険じゃないか？
何が出てくるか分からない
のに入るなんて。

"俺たち"が入るわけじゃない。
お前がここで見張っている間に
"俺"が重労働をするんだ。

クロードは姿を消すことができる。
だから、危険はないと思込んでいる。

万が一、
見つかったら？

夜中の2時過ぎだぞ。
それにこっちは透明人間だ。
「7ッ!!」とでも言わない限り、
気づくわけないだろ。

いつも、クロードが1人で
入り込んでターゲットを
鎮静させる。
私は外で待つ。



…合図を待っていた。

KABOOM



ドアが私の胸にぶち当たり、
炎の熱さを感じた。
そして思った…



…"透明人間"が燃えるのは、
目で見えるのか？





HELL'S ANGEL

JESSE ALEXANDER *Story* MICHAEL GAYDOS *Art* EDGAR @ STUDIO F *Colors* COMICRAFT *Lettering* An INVISIBLE COLLEGE *Production*

そのとき、初めて彼女を見た。
地獄の中の小さな天使。
私の"クレア"。





クレアが自分の娘になること
など知る由もなかった。



でも、1つだけ確実に
分かっていた。



どんな犠牲を払ってでも、
どんな結果になろうとも、
この子を守るためなら、何でもする。



おしめの変え方
わかるか？

知るか。
でも俺にも下着の
替えがあると有難い。

クレア。心配することはないよ。
守ってあげるから。